

私たちには、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークです。

# 東日本大震災での歴史資料レスキュー ふるさとの「歴史遺産」を未来へ



津波で被災した宮城県古文書の瓦礫中（11年4月／名取市）



津波被災古文書のクリーニング（11年10月／仙台市）



津波被災古文書の真水での洗浄（11年10月／仙台市）

石巻市本間家での被災資料レスキュー（11年4月）

巨大地震と津波で、無数の歴史資料が永久に失われました。中には私たちの活動でデータだけが残されたものもあります。災害「前」の保全の必要性を、最も悲しい形で知る事になりました。奇跡的に消滅を免れた歴史資料は、速やかに被災地から搬出し、全国のボランティアと協力して応急処置を続けています。二〇一二年九月時点の救出件数は三六。ふるさとの「歴史遺産」を未来へ伝える活動は今後も続きます。

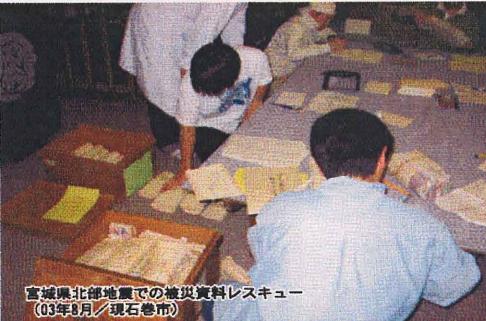


私たちは、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークです。

# 歴史資料の保全活動 災害から「ふるさとの歴史」を守る



岩手・宮城伝統震災での被災資料レスキュー  
(08年6月／栗原市)



宮城県北部震災での被災資料レスキュー  
(03年8月／現石巻市)



未整理のまま残されている古文書 (09年8月／現一関市)

宮城県気仙沼市での保全活動 (07年8月)



日本の地域社会には、古文書や古美術品、昔の生活の道具などの歴史資料が、今でも手つかずのまま、旧家の土蔵などに無数に眠っています。「ふるさとの歴史」はこれらを調べることで初めて明らかに出来るのです。

地震などの災害は、これらの歴史資料が大量に失われる契機となります。二〇〇三年七月の宮城県北部での直下型地震をきっかけに、発生が確実視されていた「宮城県沖震災」に備え、災害「前」に歴史資料を保全する活動を、行政や市民と協同して進めてきました。

ちょっと待って！

それはゴミじゃなくて、大事な歴史資料では？  
たとえ読みなくても、汚れたり破れていても、まだ救えるかもしれません。その資料が、社会を支えるかもしれません。歴史資料かな？と思ったら、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークにご連絡下さい。  
電話 022-795-7546（事務局）